

異常時の点検・処置

警告



この設備に異常があるときは以下の点検・処置をしてください。異常を放置すると火災時に警報が出ないため避難・消火活動が大幅に遅れる危険があります。

- 以下の異常状態のときは、取り扱いされる方が点検・処置をしてください。正常に戻らなかった場合は、施工店または点検契約店に連絡してください。

状態	点検	処置
交流電源灯が消灯している。	自動火災報知設備専用ブレーカーが「切(OFF)」側になっていないか？	専用ブレーカーを「入(ON)」側にする。
警戒中灯が消灯し、操作部のすべての表示灯が点灯している。	煙感知器の近くに調理の煙・水蒸気・ホコリなどが滞留していないか？ 熱感知器の近くにストーブなど暖房の熱が直接当たっていないか？ 発信機の押ボタンが押されたままになっていないか？ どこにも火事や煙の発生がないことを十分確認したか？	煙・水蒸気などを取り除き、復旧スイッチを押す。 熱などを取り除き、復旧スイッチを押す。 発信機の押ボタンを元に戻し、復旧スイッチを押す。 地区音響を再鳴動させたくない場合は、地区音響強制停止にする。(施工店・点検契約店に連絡する。)
火災でないのに警報動作をする。	どこにも火事や煙の発生がないことを十分確認したか？	地区音響を再鳴動させたくない場合は、地区音響強制停止にする。(施工店・点検契約店に連絡する。)
スイッチ注意灯が点滅している。	ベル(地区音響)一時停止スイッチの赤色ランプが点滅していないか？	●ベル(地区音響)一時停止解除スイッチを押す。 ●ベル(地区音響)一時停止スイッチの赤色ランプが点滅していない場合は、施工店または点検契約店に連絡する。
諸警報表示部が点灯し、諸警報音響もしくはトラブル音響が鳴動している。	諸警報表示部の点灯位置によって、異常内容を確認する。	異常が起きた設備の状況を確認し、施工店または点検契約店へ連絡する。



スイッチ注意灯・地区音響強制停止灯が点滅し、警戒中灯が消灯し、約1分間隔でピッチが鳴ります。この状態のままでは、正常に警報動作を行うことができません。必ず施工店または点検契約店に連絡してください。

- 以下の異常状態のときは、施工店または点検契約店に連絡してください。

状態	点検	処置
交流電源灯が消灯している。	受信機内の交流電源スイッチが「切(OFF)」側になっていないか？ AC100V配線が断線していないか？ 交流一次側ヒューズ(F1・F2)が切れていないか？	受信機内の交流電源スイッチを「入(ON)」側にする。 配線を直す。 受信機内部の異常です。施工店または点検契約店に連絡してください。
警戒中灯が消灯している。	音響強制停止灯(赤)が点滅していないか？ 地区音響強制停止灯(赤)が点滅していないか？ 試験復旧灯(赤)が点滅していないか？	音響強制停止状態を解除する。 地区音響強制停止状態を解除する。 試験復旧スイッチを押す。
火災でないのに警報動作している。	感知器配線が短絡または絶縁劣化していないか？ 火災以外の原因はないか？	配線を直す、感知器を確認する。 日常点検をする。
火災復旧状態で復旧スイッチを押しても復旧しない。	感知器または発信機が作動状態になっていないか？ 発信機灯が点滅していないか？	●感知器から熱または煙を取り除く。 ●発信機の押ボタンを元に戻す。 発信機の押ボタンを元に戻す。
非常放送中灯が点滅している。	非常放送地区音響停止端子(EB+, EB-)の配線が短絡していないか？	配線を直す。
操作表示部の警戒中灯以外のすべてのランプが点灯し、液晶表示部に「トラブルドウ サフノウ」が表示している。	自動火災報知設備専用ブレーカーが「切(OFF)」側になっていないか？ 受信機内の交流電源スイッチが「切(OFF)」側になっていないか？ 交流一次側ヒューズ(F1・F2)が切れていないか？ 停電などにより交流電源が切れていないか？	専用ブレーカーを「入(ON)」側にする。 受信機内の交流電源スイッチを「入(ON)」側にする。 受信機内部の異常です。施工店または点検契約店に連絡してください。 停電状態が復電するまで待つ。
トラブル灯が点滅、トラブル音響が鳴動し、液晶表示部に「トラブル***」が表示している。	トラブル確認操作により、トラブル内容・発生場所を確認する。(トラブル確認操作については取扱説明書(点検・施工される皆様へ)の「トラブル確認の方法」を参照してください。)	「トラブル確認の方法」ページの該当項目の点検・処置を行う。
L-C配線の終端抵抗器をはずしても断線表示しない。	該当回線があき回線登録されていないか？ 該当回線の回線種別が警報回線に設定されていないか？	指定の終端抵抗器を接続した状態であき回線登録を再度行う。 回線種別設定を確認する。詳しくは設定マニュアルを参照してください。(回線種別が警報回線の場合は断線表示はしません。)
発信機の押ボタンを押しても該当階の非常放送のメッセージが流れない。	該当回線の階が正しく設定されているか？ 配線が間違っていないか？	感知器回線の取付階設定(地区音響鳴動設定)を確認する。詳しくは設定マニュアルを参照してください。 配線を直す。

連絡先一覧表

施工店や点検契約店など、記入しておくとう便利です。

点検契約店	TEL
施工店	TEL
設備竣工	年 月 日

MEMO

内部回路図

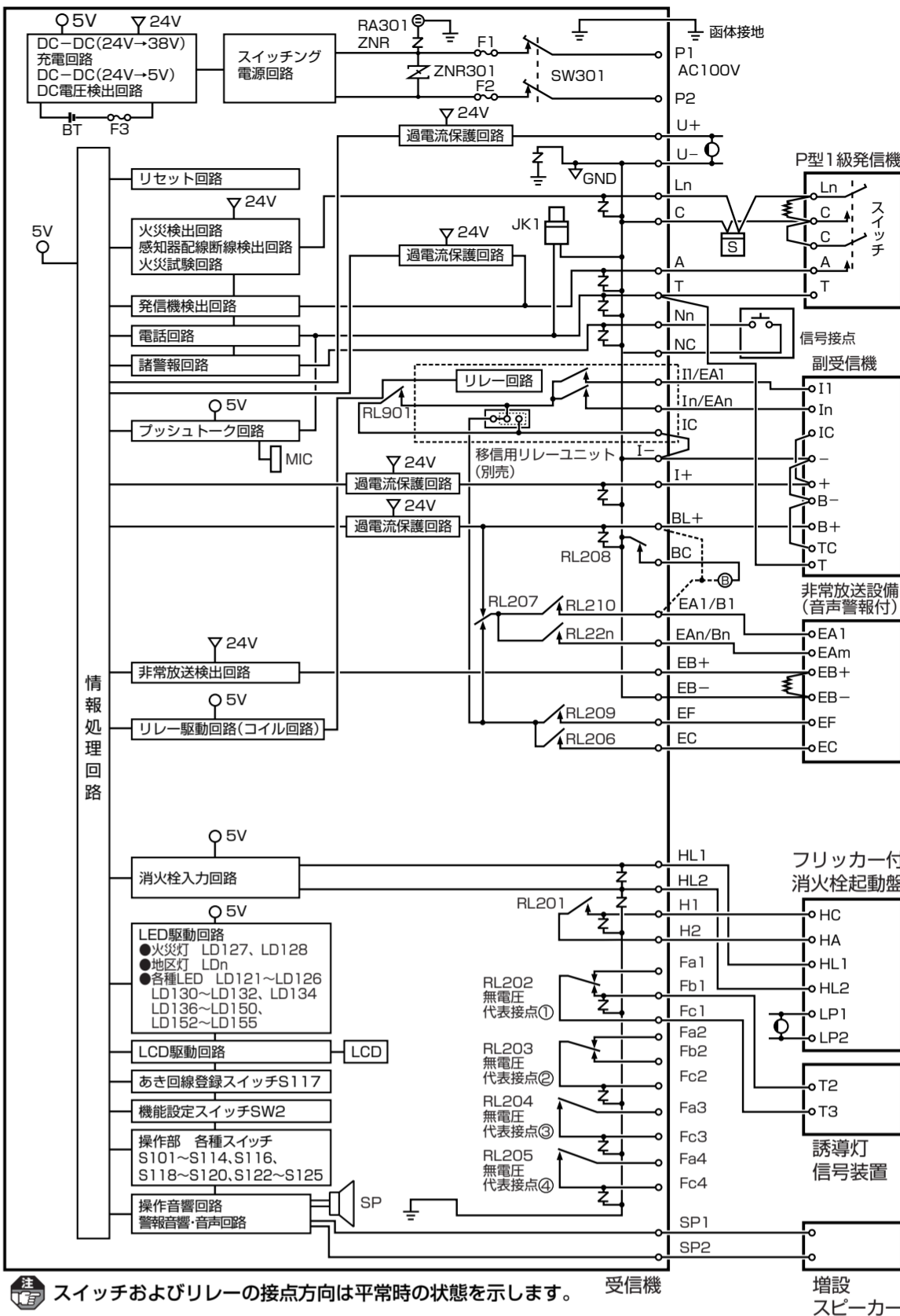
■内部回路図

■ご注意

- 蓄積型感知器の接続はできません。
- 非常放送設備(音声警報付)を接続する場合は、下記の内容にご確認ください。
 1. 「非常放送連動EA/地区音響B」端子には地区ベルを接続せず、非常放送設備(音声警報付)を接続してください。
 2. 非常放送/地区音響切替設定を「ヒジョウホウソウ」側に変更してください。(詳しくは、設定マニュアルを参照してください。)
 3. 地区音響一斉鳴動移行時間(TC)を「OFF(移行しない)」に設定してください。(詳しくは、設定マニュアルを参照してください。)
- 必ず受信機の地区ベル接続容量以内で使用ください。
- 建物のリニューアル時などで受信機を交換する場合は下記内容にご確認ください。
 - 地区ベルの駆動方式が電磁式でないことを確認してください。電磁式の場合は、受信機の内部回路を破壊するおそれがあります。

■適用品番 NBP103AEA□□、NBP103FKA□□(□□は回線数)

記号	名称	記号	名称
SW301	交流電源スイッチ	LD142	試験スイッチ灯(赤)
F1,F2	電源一次ヒューズ	LD143	通話中灯(赤)
F3	電池ヒューズ	LD144	地区音響一斉鳴動灯(赤)
BT	電池	LD145	点検スイッチ灯(赤)
SP	音声警報スピーカー	LD146	試験復旧スイッチ灯(赤)
MIC	プッシュトーク用マイク	LD147	トラブル履歴確認灯(赤)
JK1	電話ジャック	LD148	移行停止灯(赤)
LCD	液晶表示装置	LD149	非常放送連動停止灯(赤)
RL201	消火栓連動リレー	LD150	消火栓連動停止灯(赤)
RL202~RL205	代表移行リレー	LD152~LD155	OP1灯~OP4灯(赤)
RL206	非常放送コモンリレー	S101	受信機音響停止スイッチ
RL207	非常放送連動(EA)/地区音響(B)切替リレー	S102	ベル(地区音響)一時停止スイッチ
RL208	地区音響コモンリレー	S103	ベル(地区音響)一時停止解除スイッチ
RL209	非常放送火災確認移行リレー	S104	復旧スイッチ
RL210~RL210+(n-1)	個別移行(EA/B)リレー	S105	通話スイッチ
RL90	移行コモンリレー	S106	地区音響一斉鳴動スイッチ
LD127,LD128	火災灯(赤)	S107	蓄積解除スイッチ
LDn	地区灯(赤)	S108	点検スイッチ
LD121	交流電源灯(緑)	S109	実行スイッチ
LD122	警戒中灯(緑)	S110	戻るスイッチ
LD123	トラブル灯(赤)	S111	▲(上)選択スイッチ
LD124	音響強制停止灯(赤)	S112	▼(下)選択スイッチ
LD125	地区音響強制停止灯(赤)	S113	試験復旧スイッチ
LD126	スイッチ注意灯(赤)	S114	試験スイッチ
LD130	発信機灯(赤)	S116	トラブル履歴確認スイッチ
LD131	消火栓灯(赤)	S117	あき回線登録スイッチ
LD132	電話灯(赤)	S118	移行停止スイッチ
LD134	非常放送中灯(赤)	S119	非常放送連動停止スイッチ
LD136	ベル(地区音響)一時停止灯(赤)	S120	消火栓連動停止スイッチ
LD137~LD140	諸警報灯1~諸警報灯4(赤)	S122~S125	OP1~OP4スイッチ
LD141	蓄積解除・蓄積中灯(赤)	SW2	機能設定スイッチ
		ZNR,RA301	サージアブソーバ



スイッチおよびリレーの接点方向は平常時の状態を示します。受信機増設スピーカー

定格・仕様

国家検定型式番号	受第26~28号			
常用電源	AC100V 50/60Hz (P1-P2)	回線数	5	10
			15	20
予備電源	5・10回線	DC 24V 450mAh	ニッケル・カドミウム蓄電池(充電方式: トリクル充電 充電電流1.0mA)(受託評価適合品)	
	15・20回線	DC 24V 600mAh	ニッケル・カドミウム蓄電池(充電方式: トリクル充電 充電電流1.5mA)(受託評価適合品)	
地区音響装置 ※1	DC 24V 300mA (BL+・BC) 非常放送時、地区音響停止機能 (EB+・EB-)			
非常放送連動 ※2	無電圧接点(EC-EA1・EAAn,EF) 接点容量DC 30V 1Aまで			
表示灯	DC 24V 420mA (U+・U-)			
副受信機電源	DC 24V 150mA (I+・I-)			
感知器電圧・電流	DC 24V 短絡電流27.5mA 外部配線抵抗 往復50Ω以下 (C-L1…Ln)			
終端抵抗器	10kΩ (4.3kΩ・5.1kΩ・20kΩも対応可能) ※3			
感知器接続数 ※4	●当社熱感知器(電子式自己保持型)(A) : 1回線当たり80コマまで(20コ)			
	●当社煙感知器(NSS207)(B) : 1回線当たり30コマまで(7コ)			
感知器接続数 ※4	●当社煙感知器(HSS208)(C) : 1回線当たり20コマまで(5コ)			
	●当社光電式分離型感知器(D) : 1回線当たり1セットまで(接続不可)			
	●当社炎感知器(NSF904)(E) : 1回線当たり4コマまで(1コ)			
	●当社熱電対検出器(F) : 1回線当たり4コマまで(1コ)			
	●()内の接続数は、終端抵抗器設定が「20kΩ」時の接続回数になります。			
●上記感知器が混在する場合は、下記の方程式により接続数を決めてください。				
●「5.1kΩ/10kΩ」設定時: $A + \frac{8}{3}B + 4C + 20(E+F) \leq 80$ 、 $D = 1$				
●「20kΩ」設定時: $A + \frac{8}{3}B + 4C \leq 20$				

主音響装置	警報音(断続音)+音声メッセージ DC318mA(DC5V)・85dB/m以上
副受信機 ※5	無電圧接点出力(1C-I1…In) 接点容量DC 30V 1Aまで
消火栓始動	無電圧接点(H1-H2)接点容量DC 30V 1Aまで 始動確認灯24V 5mA(HL1-HL2)
代表移行接点 ※6	無電圧接点4系統(Fc1-Fa1・Fb1)(Fc2-Fa2・Fb2)(Fc3-Fa3)(Fc4-Fa4) 接点容量DC 30V 1Aまで
蓄積時間	公称蓄積時間60秒(煙感知器…60秒 熱感知器…10秒)
諸警報電圧・電流	DC24V 短絡電流5mA 外部配線抵抗 往復50Ω以下(NC-N1…N4)
増設スピーカー ※7	光る増設スピーカー…3台/増設スピーカー…1台 配線長 φ0.9~50m以下 φ1.2~100m以下
使用周囲温度	0℃~+40℃
質量	露出型…7kg/埋込型…8kg

- ※1 EB+、EB-端子の非常放送側の接続端子に終端抵抗器10kΩを接続してください。
- ※2 EA1…EAAn端子は、地区音響の区分鳴動時にも使用できます。EC-EF接点が閉じるのは、発信機発報スプリングア回線の発報、または第2報目の感知器発報の場合です。一斉鳴動移行時間(TC)による動作では、EC-EF接点は閉じません。
- ※3 20kΩの終端抵抗器が接続されている場合、終端抵抗器設定を「20kΩ」にし、それ以外は「5.1kΩ/10kΩ」に設定してください。また、20kΩとそれ以外(10kΩ・5.1kΩ・4.3kΩ)との混在は不可となります。
- ※4 熱感知器(接点式熱感知器・差動式分布型感知器(空気管式))は1回線当たりの接続数の制限はありません。
- ※5 副受信機と接続する場合は、P型1級用副受信機内器(NY1403FKB□□□)(□□は回線数)(別売)に同梱されている「移行用リレーユニット」を受信機に取り付けらうえて、受信機と副受信機間の接続を行ってください。
- ※6 代表移行接点は、設定により用途を変更することができます。出荷時はすべて火災代表設定になっています。(詳しくは設定マニュアルを参照してください。)
- ※7 増設スピーカーは火災警報音響、トラブル音響、作動音響が鳴動します。(一斉試験、点検時音響は鳴動しません。)増設スピーカーの鳴動は受信機の主音響鳴動と同じタイミングで警報内容を鳴動します。(鳴動停止も同じタイミングです。)光る増設スピーカーの場合は、鳴動と同時にフラッシュランプが点滅します。(点滅のみ、最大約2分間で消灯します。)

点検のしかた(つづき)

感知器・発信機の作動回線の確認方法

●以下の試験は、扉を開けてください。

1 試験復旧スイッチを押す。

- 試験復旧スイッチ灯、スイッチ注意灯が点滅し、警戒中灯が消灯します。

2 受信機音響強制停止状態にする。

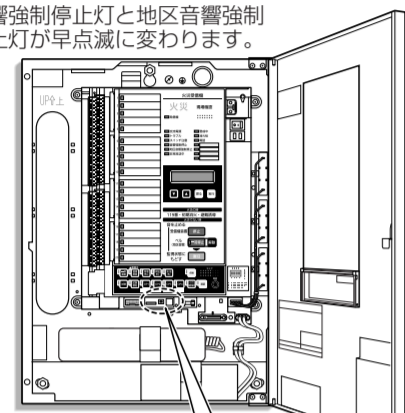
- 音響強制停止灯が点滅します。

3 地区音響強制停止状態にする。

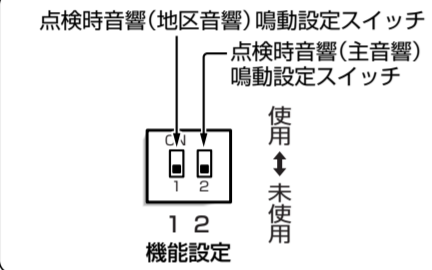
- 地区音響強制停止灯が点滅します。
- 約1分間隔でビップ音が鳴ります。

4 受信機内の機能設定スイッチの点検時音響(主音響・地区音響)スイッチを「使用」側にする。

- (出荷時は「未使用」側で主音響・地区音響とも点検音響鳴動なし)
- 音響強制停止灯と地区音響強制停止灯が早点滅に変わります。



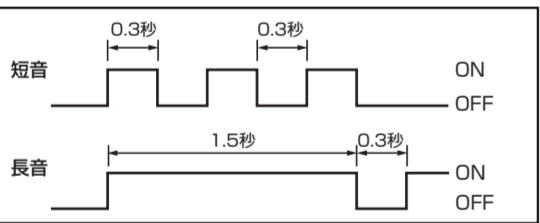
●扉を開けた状態



5 作動試験をしたい感知器・発信機を動作させる。

- 受信機が警報動作したとき主音響は回線を音声で知らせ、地区音響は、短音と長音を組み合わせて、回線の番号分鳴ります。

発報回線	点検音響(地区音響)	点検音響(主音響)
1回線	単音	1回線
2回線	単音・単音	2回線
3回線	単音・単音・単音	3回線
4回線	単音・単音・単音・単音	4回線
5回線	長音	5回線
6回線	長音・単音	6回線
...		
9回線	長音・単音・単音・単音・単音	9回線
10回線	長音・長音	10回線
...		
20回線	長音・長音・長音・長音	20回線



- 受信機音響、地区音響が強制停止状態でも点検時音響(主音響、地区音響)が出力されます。
- 複数の回線が警報したときは、先に警報信号を受信した回線の点検音響を出力させます。
- 点検時音響モード中は、地区音響の点検時音響は全回線動作に切り替ります。
- 点検時音響(主音響)鳴動設定スイッチが「使用」側であっても、音響強制停止灯が消灯している場合は、主音響が約6秒間動作します。
- 点検時音響(地区音響)鳴動設定スイッチが「使用」側であっても、地区音響強制停止灯が消灯している場合は、地区音響が約6秒間動作します。

6 試験終了後、受信機内の機能設定スイッチの点検時音響(主音響・地区音響)鳴動設定スイッチを「未使用」側にする。

- 「未使用」側にしないと点検時に主音響と地区音響が鳴動します。
- 音響強制停止灯と地区音響強制停止灯が点滅に変わります。

7 地区音響強制停止状態を解除する。

- 地区音響強制停止灯が消灯します。

8 受信機音響強制停止状態を解除する。

- 音響強制停止灯が消灯します。

9 試験復旧スイッチを再度押す。

- 試験復旧灯、スイッチ注意灯が消灯し、警戒中灯が点灯し平常時の監視状態に戻ります。

試験中に火災を受信した場合
試験中の回線が火災を受信した場合、 9 の操作のあとに火災警報します。

電池試験と電池の電圧測定方法

この試験は、受信機の予備電源として内蔵されている電池に異常がないかを調べるものです。電池電圧値を測定する場合は、下記の「電圧測定」をしてください。

電池試験

- 以下の試験は、点検用スイッチカバーを開けてください。

1 試験スイッチを押し、続いて▼スイッチを2回押し液晶表示部に「デンチ シケン」を表示させてから実行スイッチを押す。

(試験スイッチ灯、スイッチ注意灯が点滅します。)



- 自動的に5秒間電池試験を実行します。実行スイッチを押し続けることにより、連続して電池試験を実施することができます。(電池試験中は交流電源灯が消灯します。)
- 実行スイッチを5秒以上押し続けた場合は、実行スイッチを押すのをやめた時点で結果表示を行います。

2 試験結果が「良」の場合は、液晶表示部下側に「リヨウ **.*V」(**.*Vは電池電圧)が表示されます。

「良」の場合	「不良」の場合
デンチ シケン ケッカ リヨウ **.*V	デンチ シケン ケッカ ブリョウ

- 液晶表示部の電池電圧は目安です。正確な電池電圧を測定する場合は下記の「電圧測定」をしてください。
- 「不良」の場合、電池を交換してください。(施工説明書を参照)

3 試験スイッチを再度押し、平常時の監視状態に戻す。

- 試験スイッチ灯、スイッチ注意灯、液晶表示部が消灯します。

電圧測定

- 以下の試験は、扉を開けてください。

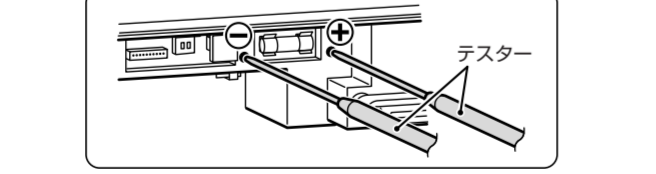
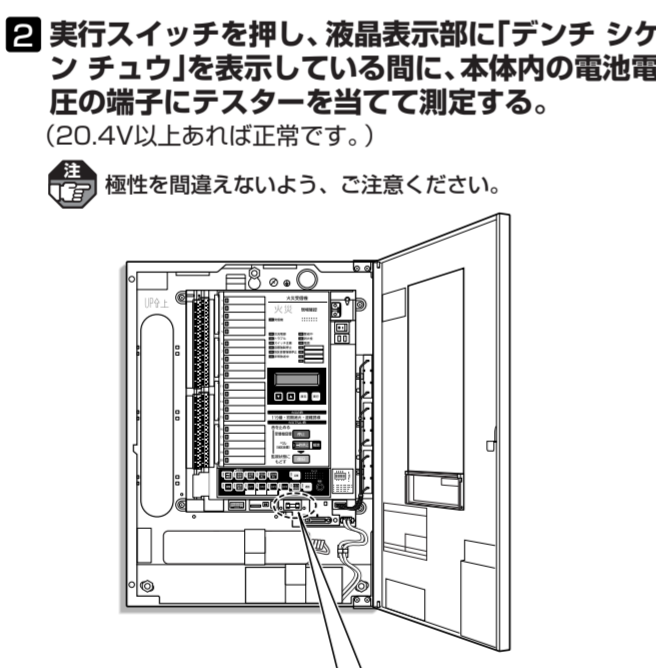
1 試験スイッチを押し、続いて▼スイッチを2回押し液晶表示部に「デンチ シケン」を表示させてから実行スイッチを押す。

(試験スイッチ灯、スイッチ注意灯が点滅します。)

2 実行スイッチを押し、液晶表示部に「デンチ シケン チュウ」を表示している間に、本体内の電池電圧の端子にテスターを当てて測定する。

(20.4V以上あれば正常です。)

- 極性を間違えないよう、ご注意ください。



定期試験について

- この試験は受信機内の試験です。
- 定期試験の内容は、「火災受信回路試験」「電源試験(電池試験)」「登録データのチェック」です。
- 試験実行は、約168時間に1回実施し、試験結果が「不良」の場合、トラブル灯が点滅し液晶画面にトラブル表示します。(トラブル発生時の点検・処置については、「トラブル発生時の点検・処置」を参照してください。)

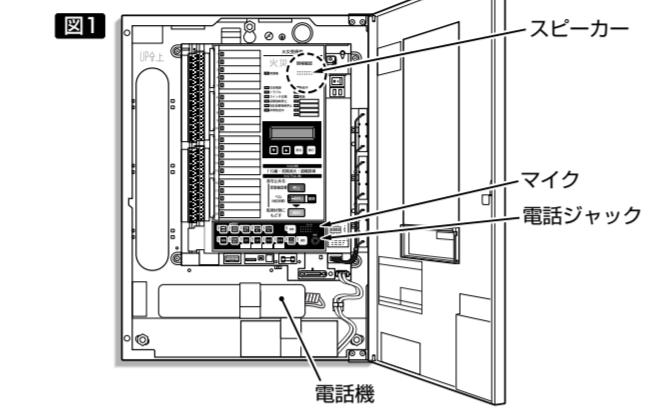
電話機(付属)の使い方

- 電話の呼び出しがない状態では、受信機の電話ジャックに電話機のプラグを差し込まないでください。差し込んだままだと電話音響が鳴動しません。
- この電話機(付属)では、消防署への通報はできません。

■火災状況の確認などの連絡ができます。

電話機(付属)の使い方

受信機と発信機間または受信機と副受信機間で、火災状況の確認など電話連絡ができます。



1 電話機は受信機内部に収納されているが(図1参照)、収納袋に収納され、受信機の近くに吊り下げられています。

2 電話機(付属)のプラグを、発信機または副受信機の電話ジャックに差し込みます。



3 受信機の電話音響が自動的に鳴り、電話の呼び出しを知らせます。

- 電話灯が点滅します。

4 点検用スイッチカバーを開ける。

5 受信機音響停止スイッチを押すと、電話音響が停止して、相手側の電話音声が発信機のスピーカーから聞き取れます。

●電話音響が停止して、相手側の電話音声が発信機のスピーカーから聞き取れます。



6 通話スイッチを押している間は、逆に受信機側の音声が発信機または副受信機に接続した電話で聞き取れるように切り替わります。

●通話スイッチを押している間は、相手側の電話音声は聞こえません。(片方向通話 フッシュトーク)

別売の電話機をもう一台持っている場合

電話灯が点滅中に電話ジャックにもう一台の電話機のプラグを差し込んで、電話機どうして通話することができます。

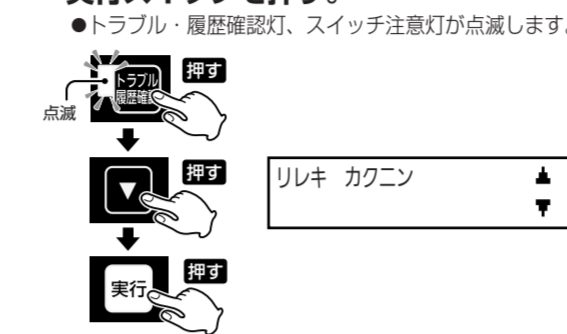
- 電話ジャックに電話機のプラグを差し込むと電話音響は自動的に止まります。
- フッシュトーク中に電話ジャックに電話機のプラグを差し込むとフッシュトークは停止します。

発報/操作履歴の確認方法

- この操作は、過去の受信機動作・操作内容を確認するための操作です。
- 以下の操作は、点検用スイッチカバーを開けてください。

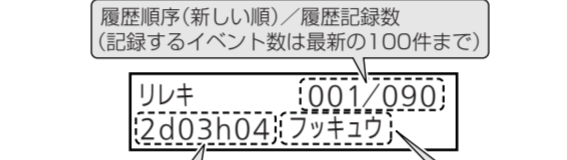
1 トラブル・履歴確認スイッチを押し、続いて▼スイッチを押し、液晶表示部に「リレキ カクニン」を表示させてから実行スイッチを押す。

- トラブル・履歴確認灯、スイッチ注意灯が点滅します。



●液晶表示部に履歴内容を新しい物から表示します。(詳しくは「履歴表示内容」を参照してください。)

●今から2日3時間4分前に復旧スイッチが操作された場合

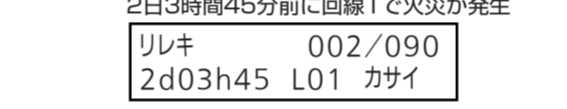


イベントが発生してから「リレキ」を表示するまでの経過時間(7日以前に発生したイベントは「7dヨリエ」と表示します。)

2 ▼スイッチを押すごとに履歴内容が変わります。

- 火災発生時の履歴表示時は、発生回線の地区灯も点灯します。

●2番目の履歴内容
2日3時間45分前に回線1で火災が発生



3 トラブル・履歴確認スイッチを再度押すと、平常時の監視状態に戻る。

- トラブル・履歴確認灯、スイッチ注意灯が消灯します。

●今までの記録していたすべての履歴内容が削除されます。

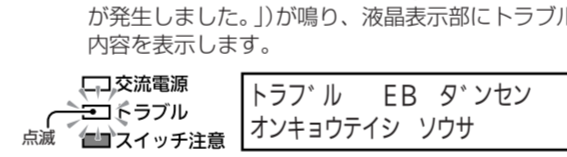
- 履歴クリアすると、完了音(ビップ)が鳴ります。

トラブル確認の方法

- この操作はトラブル灯が点滅し、音声警報が鳴動したとき、トラブルの内容を確認するための操作です。
- 以下の操作は、点検用スイッチカバーを開けてください。

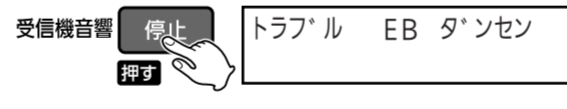
1 トラブルが発生すると

- トラブル灯が点滅し、音声警報音(「ピー」トラブルが発生しました。)が鳴り、液晶表示部にトラブル内容を表示します。



2 受信機音響停止スイッチを押す。

- 音声警報が止まります。



トラブルが複数箇所発生している場合

1 トラブル・履歴確認スイッチを押し、液晶表示部に「トラブル カクニン」を表示させてから実行スイッチを押す。

- トラブル・履歴確認灯とスイッチ注意灯が点滅します。
- 液晶表示部上段に「トラブル01/n」(1番目のトラブル(n: 総発生数)、下段にトラブル内容を表示します。)



●トラブルが全部で3ヵ所発生していてEB断線が一番古い

2 ▼スイッチを押すたびに次のトラブル内容が変わります。

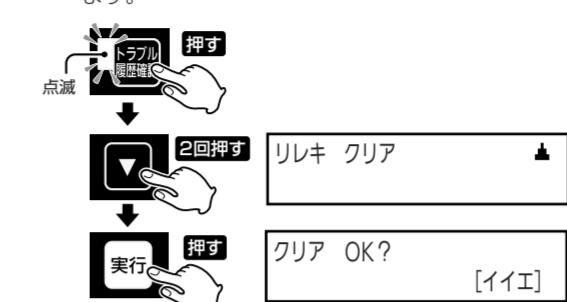
3 「トラブル発生時の点検・処置」にしたがってトラブルを復旧させる。

- トラブルが復旧すれば、トラブル灯が消灯し、液晶表示部は「トラブル 00/00」になります。

履歴を消したい場合

1 トラブル・履歴確認スイッチを押し、続いて▼スイッチを2回押し、液晶表示部に「リレキ クリア」を表示させてから実行スイッチを押す。

- トラブル・履歴確認灯、スイッチ注意灯が点滅します。

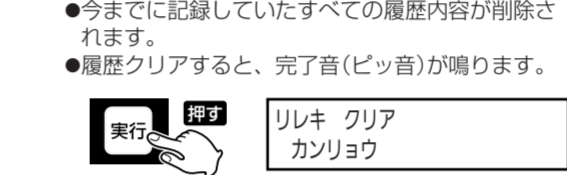


2 ▼スイッチを押し、「ハイ」に変更する。

●クリア OK? [ハイ]

3 実行スイッチを押す。

- 今までの記録していたすべての履歴内容が削除されます。
- 履歴クリアすると、完了音(ビップ)が鳴ります。



4 トラブル・履歴確認スイッチを再度押すと、平常時の監視状態に戻る。

- トラブル・履歴確認灯、スイッチ注意灯が消灯します。

●今までの記録していたすべての履歴内容が削除されます。

- 履歴クリアすると、完了音(ビップ)が鳴ります。

■トラブル発生時の点検・処置

液晶表示部の表示内容	点 検	処 置
L**タ*ンセン (** : 回線番号)	感知器配線が断線していないか? 感知器配線に終端抵抗器が接続されているか? 指定外の終端抵抗器が接続されていないか? 終端抵抗設定が正しく設定されているか? 受信機のあき回線登録スイッチであき回線の再登録を行う。	配線を直す。 指定の終端抵抗器を接続する。 指定の終端抵抗器と交換する。 終端抵抗器設定を確認する。(詳しくは設定マニュアルを参照してください。)
BT ハズレ	電池が接続されているか? 電池ヒューズ(F3) (5A)が切れていないか?	受信機内の電池を接続する。 ヒューズ(F3) (5A)を交換する。
EB タンセン	非常放送地区音響停止端子(EB+-EB-)の配線が断線していないか? 非常放送地区音響停止端子(EB+-EB-)を使用していない場合、終端抵抗器が接続されているか?	配線を直す。 非常放送地区音響停止端子に指定の終端抵抗器(10kΩ)を接続する。
デ*ンアツErr	交流電源スイッチが「切(OFF)」側の状態で電池の電圧が低下していないか?	受信機内の交流電源スイッチを「入(ON)」側にする。
ド*ウサフノウ	停電などにより受信機の交流電源が切れていないか? 副受信機電源(I+I-)が20.4V以上あるか? 交流一次側ヒューズ(F1・F2)が切れていないか?	停電状態が復電するまで待つ。 受信機内部の電源回路が異常です。施工店または点検契約店に連絡してください。
カイル*E r r (** : 回線番号)	交流電源スイッチが「切(OFF)」側の状態で電池の電圧が低下していないか? 停電などにより受信機の交流電源が切れていないか? 副受信機電源(I+I-)が20.4V以上あるか? 交流一次側ヒューズ(F1・F2)が切れていないか?	受信機内部の交流電源スイッチを「入(ON)」側にする。 停電状態が復電するまで待つ。 受信機内部の電源回路が異常です。施工店または点検契約店に連絡してください。
BTシケン NG	一斉試験を行い、火災表示試験項目で全回線点灯するか? または、該当回線の火災試験を行い、正常に火災状態になるか?	受信機内部の火災受信回路が異常です。施工店または点検契約店に連絡してください。
デ*ータErr1	---	新しい電池と交換し、再度電池試験を行い、結果が「良」になることを確認してください。(新しい電池に交換しても、再度電池試験をしないと「BT シケン NG」の表示は消えません。)
デ*ータErr2	---	ソフト登録データ異常です。ソフト設定を再度行ってください。それでも復旧しない場合は、施工店または点検契約店に連絡してください。
メモリ Err	---	使用回線の登録データ異常です。あき回線登録を再度行ってください。それでも復旧しない場合は、施工店または点検契約店に連絡してください。
N**トラフル (** : 01~04)	---	内部メモリー異常です。施工店または点検契約店に連絡してください。
BL タンラク	地区音響配線(BL+・Bn-BC)が短絡していないか?	配線を直す。
A タンラク	発信機応答線(A-C)が短絡していないか?	配線を直して、地区音響一斉鳴動操作を行い、短絡が発生しないことを確認する。
I タンラク	副受信機電源配線(I+I-)が短絡していないか?	配線を直して約1分間待つ。
U タンラク	表示灯配線(U+U-)が短絡していないか?	配線を直して約1分間待つ。